20世紀最後の インカレチャンプ決定戦

頂点への10レース

2000 Nov.28～30, Hamanako Sizuoka
Report/Yasutake Iioka (University of Gakusyuin)

時は2000年。ウインドサーフィンが誕生した20世紀。その最後を飾るにふさわしいインカレ個人戦が、11月28日～30日の3日間に渡り、静岡県浜名湖にて開催された。今年も日本全国から予選を勝ち抜いた男子100名、女子33名が集結。熱き戦いの果てに今世紀最後の学生チャンピオンが決定した ―

↑100名がひしめくスタートライン。この一瞬が勝敗の命運を大きく分けるため、怒声、罵声が飛び交い、ただならぬ緊張感が生まれていた。

11月24日―大会4日前
海面とライバルらの動向

香川県でのミストラル全日本から1週間後。自分(飯岡)は休む間もなく浜名湖へと車を走らせていた。11月下旬の浜名湖。吹きそうな予感だ。が、浜名湖に到着するとそこは予想に反しての無風地帯。先乗りして練習しているはずの野村(以下ノム)、杉本(スギ)、金山、当麻の姿も見当たらない。仕方なく微風の浜名湖を慶応の後輩、上野とバンピングしていると、そこへ奴らが帰ってきた。どうやら競艇場に行っていたらしい…。

しかしレース前日になって風は入った。ここ数日のあまりの風の無さに「今年はインカレできないんじゃないの?」と思っていた一同の間に歓喜の雄叫びが上がる。強風とまではいかないが、沖にはプレーニングするイムコセイルが見え、結局、レース前日にもかかわらず、僕とやんちゃな金山あたりは練習しすぎてしまった。

11月28日―大会初日
3年寒川VS出遅れた4年勢

1R

駐車場に着いて海面を見ると、まあまあの風。予定通り10時半にはZ旗が揚がりそうだ。セッティングを始めるも、カニンガムをいじる手がうまく動いてくれない。ただ寒いだけか? 緊張しているのか? それが緊張だとすれば優勝候補とされる他の奴らも同じはずだ。

コースは今年から強風域以外では国際レースの主流であるトラペゾイドコースが採用された。昨年までとは違うこのコースで、どんなドラマが生まれるのか? この日の気圧配置は西高東低の冬型。しかし、風はまだ上がってこない。

第1Rは4～5m/sの風。上有利かと思いきや、スタート直前に下振れ。さらに左海面にブローが入り、その単発ブローを独り占めした学習院・当麻が爆走した。上から出た自分は一上回航時点で30番前後。が、「しょっぱなからやっちまった―!」と後悔する僕の横には、なんとノム、ケンジの姿も…。「良かった、俺だけじゃねーっ!」と心を落ち着かせるもサイドのレグは潜いでも潜いでも進まない。下マークも変わらぬ順位で回航したが、二上で盛大にスーパーブロー地帯に突入。右に伸ばしてタックすると今度はスタボーのリフトブロー。その勢いでまくりにまくって断トツ1位の当麻に続き、一気に3位まで浮上した。2位は同様に鬼まくりしたケンジ。が、ブローを取り損ねたノムは20位。いきなり爆弾を背負ってしまった。しかしこの男、実はここからが強かった――。

2R

風は勢いを増し、10～12m/s。多くの選手がセッティングに頭を悩ませた。普段使っている7.4のセイルと違い、6.6のセイルはトップの長さを調節したりするのでセッティングが難しいのだ。しかし、微妙なセッティングが走りには大きく影響する。案の定、スタート直後のスーパーブローでは、ハエ叩きを食らう選手、上を向いて止まっている選手が続出した。そんな中、強風域では圧倒的な艇速をもつノムがピン。2位には元祖ガリガリ君のスギ、3位には関西の3年生エース、甲南・寒川(テル)が入った。

3R

さらに風は上がってきた。第2Rのスタートで失敗した僕は「今度こそ」と意気込むも、またもやスタート直後に京大の三善に被されてしまう…。このレース、ピンを奪取したのは鹿児島のエース、4年生の吉村。強風の王者、ノムをも余裕でかわすトップフィニッシュだった。が、吉村に第1R、第2Rの順位を聞いてみるとアレレ? 50位くらいらしい。「強風しか走らないからなー」と苦笑いする彼に「そんなことないぜ、カッコよかった!」と言いたいところだったが、僕はこのレース、実は吉村の姿が1回も見えなかった…。3位には大会直前までロスに逃亡していた金山が入り、4位には京大の若きエース吉野が続く。そして初日のレースは第3Rをもって終了。暫定1位はなんと3年生のテル。最近の彼は全日本でも入賞し、ノッている。そして2位に入った金山も、あまり練習していなかったくせに速くて上機嫌。3位に当麻、4位にケンジ、5位に僕。うーん、頑張らねば。6位のノムは、第1Rの20ポイントがカットできれば、今のところ断トツ。明日以降に勝負はかかる。

11月29日―大会2日目
野村が他を引き離し始めた

4R

朝からの無風状態に、ずっと無風でレースができなかった昨年の2日目が思い出され、選手の間に嫌な予感がよぎる。レースができたとしても微風だろう。必死に風を待つが、一向に吹く気配がない。しかし1時を過ぎた頃に、突然Z旗が掲揚され、選手達は慌てて沖に向かった。

何度かのゼネリコの後、オールフェアーでスタートした第4R。この日の微風で走らなければ後がないと思った僕は、見城さん(我らが日本のオリンピック代表)ばりにサングラスをかけて気合をいれるも、緊張しすぎて上からスタートが切れず、挙句の果てに他の選手と接触。なんとビリでスタートするハメになり、恥ずかしさで頭が真っ白になってしまった。そうこうしている間に出てきたのは学連一微風を得意とする男、早稲田4年の村瀬。今年はNTメンバーに選ばれ、勢力的にレースを回っていた彼は"半端ねぇー!"艇速で他を圧倒。余裕のピンをゲットした。2位には元祖微風オタクのケンジ、3位にはついにやってきたノム。そして4位には武蔵大3年の小川ウドが続いた。優勝争い軍団では金山、当麻、僕が沈没。また、ここにきて同志社3年の江草や、スーパー2年生の千菊が走り出し、琵琶湖勢が底力を見せつける。

5R

風は弱いが安定して吹いている。微風域ではどうしてもスタートラインが上がってしまう傾向があるが、全国各地から集まった選手の間にかなりのレベルの差があるのもまた事実。最初のゼネリコ後からブラックフラッグルールが適用された。とはいえ微風レースでは、スタートで前に出られなければ勝ち目はない。しかし優勝を狙うには、リコールは最大の命取りとなる。ブラックとジャストスタートの狭間で緊張する選手達。そしてスタートのホーンが鳴った。やはり村瀬が速い。僕は奴がマークを間違えることを祈っていたが、さすがにそんな事は起こらずトップは村瀬、そして2位にやっとこ僕。3

RESULT

Men's

Pos.	Name	Belongs	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	Score
1	野村俊光	桜美林大学	20	1	2	3	5	1	6	1	1	2	22
2	平生結志	東海短期大学	2	8	8	2	4	5	[illegible]	6	2	1	31
3	飯岡靖武	学習院大学	3	7	10	22	2	3	4	5	7	11	52
4	金山淳吾	早稲田大学	9	4	3	16	10	26	2	3	3	3	53
5	当麻茂樹	学習院大学	1	10	7	17	9	14	19	4	18	15	92
6	寒川雄之	甲南大学	5	3	5	9	16	6	22	10	17	32	93
7	高谷 [illegible]	早稲田大学	17	5	6	14	44	10	3	30	16	8	100
8	千菊 [illegible]	同志社大学	6	19	20	5	19	18	5	47	12	7	109
9	杉本慎史	関東学院大学	18	2	14	10	7	9	28	2	101	24	114
10	横田良介	早稲田大学	10	30	21	1	1	4	21	2	100	34	115
11	山崎大輔	明治大学											
12	三善孝之	京都大学											
13	江草和輝	同志社大学											
14	山田彰俊	桜美林大学											
15	上野誠章	慶応義塾大学											
16	小川宏高	武蔵大学											
17	廣石良史	早稲田大学											
18	村野宗之	明治大学											
19	荒川智之	高知大学											
20	鈴木光信	慶応義塾大学											
21	[illegible]	東京水産大学											
22	[illegible]	京都大学											
23	高下 [illegible]	関東学院大学											
24	[illegible]	京都大学											
25	[illegible]	[illegible]大学											
26	[illegible]	[illegible]大学											
27	[illegible]	[illegible]大学											
28	[illegible]	[illegible]大学											
29	山下 [illegible]	[illegible]大学											
30	[illegible]	高知大学											